

令和6年度 第1回 徳島県環境審議会（環境政策部会） 会議録

1 日 時

令和7年2月26日（水）午前10時30分から正午

2 場 所

徳島県庁10階 大会議室

3 出席者

＜委員＞ 21名中16名出席

（1号委員：環境の保全に関し学識経験のある者、五十音順、敬称略）

井上奈穂委員、榎本久美委員、大島蓮果委員、小笠原功委員、岡部千鶴委員、
奥嶋政嗣委員、喜多三佳委員、上月康則委員、島田めぐみ委員、田村和之委員、
西山成実委員、野田稔委員、橋本千栄子委員、藤田晶子委員、北條昌秀委員（部会長）

（2号委員：市町村長又はその指名する職員、五十音順、敬称略）

角谷由佳委員

＜事務局＞

松本生活環境部環境指導統括監、島田サステナブル社会推進課長、
松本サステナブル社会推進課脱炭素推進室長 ほか

4 会議次第

1 開 会

2 議 題

（1）第4次徳島県環境基本計画の進捗について

（2）徳島県GX推進計画の進捗について

（3）令和6年度徳島県環境白書について

（4）その他

3 閉 会

5 配付資料

資料1－1 第4次徳島県環境基本計画の進捗について

資料1－2 第4次徳島県環境基本計画の概要

資料1－3 第4次徳島県環境基本計画指標一覧

資料1－4 環境基本計画指標について（補足）

資料2－1 徳島県GX推進計画の進捗について

資料2－2 徳島県GX推進計画の概要

資料2－3 徳島県GX推進計画指標一覧

資料3－1 令和6年度徳島県環境白書について

資料3－2 令和6年度徳島県環境白書資料

＜議題 1 及び 2＞

(事務局より議題 1 及び 2 について説明の後、質疑応答)

(部会長)

委員の皆様にご確認いただいている間に私から質問です。資料 2-3 につきまして、今ほどご説明いただいた、計画修正のご提案のことですけれど、2800 k W から 4500 k W までということですが、この 4500 という数字に具体的な根拠があるのであればご説明いただきたい。例えば、具体的にこれだけの施設について、建築基準等々の全ての基準を満たして設置できる見込みがある、といった数字なのか。言い方を変えれば、2030 年に向かう際に、95% 達成しているのでまた数値目標を上げていく可能性があるような数字なのか。もしくは、非常に高い数字なのかご説明ください。

また、県有施設にどんどん設置を進めてきたわけですけど、一番古い設備というのは更新にかかるようなことはないのかというのも、持ち得ている情報からご説明いただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。脱炭素推進室です。GX 推進計画、資料 2-3 でございますが、そちらの目標値、太陽光発電の設備容量につきましてご質問いただきました。当初こちらの計画につきましては、基準値であります 2023 年度の 936 k W、そこから世界的な流れということで、COP の方でも、太陽光発電設備について全体で 3 倍にしていくという目標もございました。そういう中で 936 から 3 倍ということで 2800 k W を設定させていただいた上で、県の方でもどのような県有施設に太陽光発電設備を設置できるかという調査をさせていただきました。

その中で調査の結果でございますが、太陽光発電設備を新たに新設、もしくは増設できる施設が、80 施設ございました。

その中で環境省の交付金を活用してということで、先ほど申し上げた PPA 方式、こちらにつきましては民間の事業者が、県有施設の屋上等に太陽光発電設備を設置いたしまして、そこで運用から最終的な撤去まで行くと。そして 20 年間運用を行うのですが、その 20 年間にわたりまして、県としては電気料金を支払うという方式で、初期費用が低減化されるモデルで整備を行っているところでございます。

そういう中で PPA が活用できる施設数というのが、80 施設のうち 44 施設ございまして、その 44 施設につきまして、環境省の交付金、令和 5 年度から採択をいただいておりますので、5 年間で集中的に整備をしていく方向で進めているところでございます。

その中で令和 5 年度事業、6 年度事業、合わせて 15 施設で整備を進めておりますが、プロポーザルで民間事業者選定を行いまして、その中で、面積やどのようなところにおけるか、県で想定していた容量ベースを上回る事業者からの提案もございました。

そういう中で改めて、今後 5 年間どのように集中的に進めるかを算定し直しまして、ポテンシャルも考えた上で、936 から約 5 倍となる 4500 k W の目標を設定させていただいたというところでございます。

また、施設の老朽化というお話もございましたが、やはり可能性調査の中で、今回こ

の電気料金を民間事業者に P P A でお支払いするというところで、20 年間施設を継続していかなければ、事業者としても手を挙げていけないというところもございますので、そういう中で、少なくとも 20 年間施設が継続することが担保されるような施設ということも、整備対象施設の要件としては入っております。以上でございます。

(部会長)

ご説明ありがとうございました。

特に事業者様から上回る提案があったっていうところは、非常によい、嬉しいニュースでありました。その他いかがでしょうか。

(委員)

第 4 次徳島県環境基本計画の方、資料 1-4 の、温室効果ガス排出量削減率の推移を見せていただいているが、この資料の 2021 年度までの段階では、2016 年度からあまり削減できていないという状況が続いているように見えます。その下のクリーンエネルギーによる電力自給率の方で見ると、徐々に上昇している。今年の実績値ではあまり前年と変わっていないですが、参考値として見せていただいている 2022 年、2023 年の値を見ると、大きく伸びているんですが、この関係を考えると、電力需給率が上がっていても、温室効果ガス排出量が下がっていないという関係に見えるのですが、この原因を何か把握されてたら教えていただきたいというのと、本当にこれで 2022 年や 2023 年の温室効果ガスが排出削減できているといえるのか、何か把握されていたら教えていただきたい。この資料だけで順調といえるのか、というのは疑問に思いました。

(事務局)

温室効果ガス排出量削減率について、2016 年から 2021 年ということで、削減比率の方があまり変わっていないということでしたが、一方で、エネルギーの消費量を比べますと、2016 年時のエネルギー消費量は、2021 年に比べ高く、エネルギー消費量自体も下がっているということもございます。

温室効果ガスの削減比率について、環境省のマニュアルに沿って算定業務を行います。算定に際しましては電気の排出係数というのも大きく関係しております。四国電力で電気を作る際の C O 2 排出量も関係してございますので、火力発電の稼働率等も影響していると考えております。

(委員)

火力発電の方で、どの程度 C O 2 排出量がなされているかが異なるので、排出削減率に影響していたということか。

(事務局)

排出係数も C O 2 の削減比率に影響しているというところです。

(委員)

2022 年とか 2023 年で、おそらく削減できていそうだという算定は、まだ一切されていないということなんでしょうか。

(事務局)

ＣＯ２の削減比率に対する電気の割合が、2021 年度に関しましても、約半分以上が電気による排出量となっております。このため、クリーンエネルギー自給率も、電気による排出量が大きく関係しておりますので、電力自給率が上がることで、当然ＣＯ２排出量も削減できると考えておりますので、太陽光の県有施設への率先導入等を進め、自給率を上げていくことで、ＣＯ２削減比率も達成に向かっていくと考えておりますので、今のところ、順調に推移していると考えます。

(委員)

その場合、何か、簡単な数値だけでもいいので示された方がいいのではないかと思います。

(部会長)

確かにこのままだと、色々なパラメーターが同時に動くので、ちょっとわかりにくい点があったと思います。見直しできるところは是非確認いただいて、進捗度合について把握しやすいように。数字が出ると逆に数字が独り歩きする場合もあるんですけど、確認できる点は確認いただきたいと思います。

更問いで恐縮ですけど、私は電気が専門なので、電化率に関しての推移はどこかで見られてたりしますか。電気エネルギーの消費だけみても、ＥＶの話も出てきましたが、一方で電気が変わったようなエネルギーというのを把握しておく必要があるとは思うのですが、これについて、傾向等でわかることがあれば教えていただきたい。突然私が伺ってますので、もし、現状用意してないようでしたら構いませんがいかがでしょうか。2013 年からすると、徳島県の場合はどういうふうに推移してるのかなと思います。

(事務局)

今はお伝えできるような資料を持ち合わせておりません。

(部会長)

またそういう点も、重要かと思えますので。消費量が減るっていうことは産業衰退じゃないですが、それと関係してくる一方で、電化が進んでいくと、変化はしないということになりますから、そこも見ながら、徳島県の推移を見ていく必要があるかなと思いました。その他いかがでしょうか。

(委員)

徳島県GX推進計画進捗管理シートの3 番のＥＶ用充電設備設置口数。2024 年度で300 弱、298 となっていて、7 年後 2030 年までに 2000 口、結構野心的な数字かなと思うんですけども、この 2000 口に増えたときの設置場所というのはどういうところになるんですか。今現在すでにもう商業施設等では、数個ではあるが置いてあると思うんですけど、これは新規開拓していくんでしょうか、それとも商業施設の個数を増やすという感じでしょうか。

(事務局)

充電インフラにつきましては2030年に、基準値から10倍となります2000口を目指しまして、充電インフラ整備を進めています。その中で、まずは県有施設への率先導入ということで、今年度、民間事業者のゼロ予算モデルで、県有施設の土地をお貸しいたしまして、民間事業者が整備から撤去までするようなモデルで整備をしております。9施設42口で導入を進めておりまして、今回の実績値として飛躍的に伸びたというところもございます。

200から2000という話ですので、もちろん県有施設だけでは賅いきれません。ゼロ円モデルという形で、充電インフラを整備できる事業者も増えてきておりますので、県のノウハウも、しっかりと市町村や民間の企業、民間施設の方にも広げていかなければいけないと思っております。今年度、普通充電器、急速充電器、県内どのようなところにもどういう敷設が必要かという適地調査をしております、その結果をもとに、しっかり横展開を図っていきたいと思っております。

普通充電器であれば、比較的駐車時間が長いような施設ということで、今回県有施設で導入したのは、例えば、あすたむらんどやアスティ徳島といった施設であります。今後、急速充電器となりますと、短時間で充電ができるということで、基本的には、つぎ足し充電ということで、コンビニや道の駅などへの導入が事例としてありますので、他にも商業施設でありますとか、いろんなところに広がっていくように、今年度行う適地調査の結果を踏まえまして、しっかり取り組んでいきたいと考えております。

(委員)

ありがとうございました。よろしかったでしょうか。

ただいまのご意見に関しまして一言私も発言させていただきたいんですけども、そういうふうに充電箇所、充電設備が増えていったことは、できるだけ県民の皆さんに分かりやすいように、PRも一緒に考えていただければと思う。

例えば、あすたむらんどで集まるようなイベントと合わせて、そこへバスが行って充電する。バスというのは極端な話ですけど、何か車が行って、キャラクターが分かるような、つまりそこで充電して帰るというモデルがあるということがわかるような、利用の仕方を県民の皆さんにご理解いただいて、EVにスイッチするきっかけづくりにつながってほしいんじゃないかなと思いますので、広報も怠らないように進めていただければと期待するところです。

ありがとうございました。そのほかいかがでしょうか。

(委員)

一般的な生活者がとりあえずすぐさま実践できるような項目としてこちらの進捗管理シートの中で、LED照明の切り換えとか、あと、食品ロス削減とか、あとマイバックボトルを持つとか、そういった項目があると思うんですけど、こちらの3項目につきまして、どういった啓発活動とかそういうのをされたのか、ちょっと具体的に教えていただければと思います。

(部会長)

ありがとうございました。事務局からいかがでしょうか。

(事務局)

基本計画の方に、食品ロス対策として、進捗シート資料1-3でしたら例えば、21番に「徳島食べきるんじょ協力店の登録店舗数」というのがございます。

こちらにつきましては、食品ロス削減に向けまして、「食べきり」の呼びかけですとか、「食べ切れる量の提供」というものの実践を通じて、エシカル消費の普及に取り組む飲食店様を、食べきり運動協力店として募集をしております。仕入れ時の適量発注ですとか食材使い切り等、食ロス削減に努めて実践するといった登録要件がございまして、それらを満たした飲食店様に、登録証やステッカー等を交付して、ホームページやリーフレットにも掲載をするということで、業者、店舗のイメージアップを図りつつ、食ロス削減を県民の皆様方に呼びかけております。県民の皆さん方も、外食時におきまして、食べきりですとか、食べ残しを出さないというよう取組をしていただけたらと考えております。

あと、プラスチックについては、基本計画の方で、22番に「プラスチックごみ削減協力事業者数」というのがあるんですけれども、こちら事業者の取組を広く発信するというような取組になるんですけれども、使い切りの使い捨てのプラスチックの製品提供の取り止めですとか、プラスチックの代替素材を利用した製品の導入をされている事業者を募集し、広報により機運醸成を図るといった取組がございます。

例えば、生活衛生業、クリーニング屋さんですと、極力薄くした衣料用カバーを開発されるですとか、飲食店さんでしたら提供するスプーン等を、プラスチック以外のものに変えるとかそういったような取組を、やっているということを自ら発信していただくというようなことで、このプラスチックごみ削減協力事業者数ということで、設置しておりますので、そういったものに県民の皆様もこうして、プラスチック削減に向けた取組等をやっていただきたいなというふうに思います。

あとGX計画の方でもマイバック&ボトルキャンペーンということで、19番の指標にお示ししておりますけれども、こちら県民の皆様方にプラスチックを出さないという宣言というのををしていただいて、宣言をしていただいた方にマイボトルをお配りしたりして、周知啓発を図っているところでございます。マイバッグにつきましては、かねてより周知啓発をしておりますので、もうだいぶ浸透しているかなと思いますけれども、こういった県民の草の根の活動ということで、啓発をしている次第でございます。

以上です。

(部会長)

ありがとうございました。LEDのご指摘もあったかのように思いますけど。

(事務局)

LEDの切り換えに関する啓発活動の実施についてご説明させていただきます。徳島市の西新浜町にございますエコみらいとくしま館内で、啓発活動に関してポスター等の展示ですとか、各種イベントを実施する際にチラシの配布等を通じて、節電・省エネに対する県民の皆様方の理解と行動の促進を図っております。

また、エコみらいとくしまにおいて「ピカッとくしまLED教室」を開催し、LED

の特徴や仕組みについての説明やLEDの工作を通じて、参加した親子の方々等にですね、各家庭における省エネの取組っていうのを呼びかけているところがございます。以上です。

(部会長)

ありがとうございました。資料2-3の方になりますね、ご説明ありがとうございます。エコみらいの方、私もこないだ立ち寄らせてもらったんですけども、確かに広報見つけました。ありがとうございました。私も気になったんですけど資料2-3を見たときに、2024年度目標値に対して達成してる数字42回ということで、もう見込みで達成してるんですけども、これだとすると2028年54回は、かなり余裕があるような気がするのですが、これはまた54回で終わりっていうわけではなくて、どんどん実施できるものから実施していったって、効果的な方法が見つければさらに回数が増えていくということはあるわけですね。はい。その他いかがでしょう。

(委員)

資料1-4の温室効果ガス排出量削減率の一覧表について、森林吸収量が年々下がっているように見えます。2014年の数値から比べても下がっていて、資料2-3の24番、25番あたりなんですけど、県産材の生産量っていうのは、バイオマス発電とかの影響もあって順調に推移しているようなんですけども、エリートツリーの植栽割合という、割合値で表示をされていますけれども、よく現場では皆伐されても再造林が全く進んでいないという話をよく聞きます。また、せっかく植林しても食害等が非常に大きくて、定着率も非常に低いという話をよく山の方から聞きます。このエリートツリーの植栽割合ですが、開発面積に対して、再造林されている面積比がどれくらいあるのか。またエリートツリーの植栽割合だと、どのぐらい再造林されているのかが分かりませんので、森林のCO₂吸収割合が減っているということからしても、山の環境というのは悪化の一途なのではないかと見えますので、このあたりの数値の取り方というのは、もう少し分かりやすくされたほうがよいのでは。植林された中でのエリートツリーが半分以上というのは分かるんですけども、再造林自体の面積が、どの位ちゃんと再造林されているのかところも把握されているのかというのを伺いたいと思います。

(部会長)

非常に貴重なご指摘いただいたと思います。ありがとうございます。これについて、ご回答いただけることがございましたら事務局お願いいたします。

(事務局)

ご質問ありがとうございます。まずエリートツリーというのが各地の山で選抜された精英樹の中でも、特にすぐれたものを交配した苗木の中から選ばれた第2世代以降の木の総称ということで、主に成長性が改良されており、初期成長の速さが特徴ということで、二酸化炭素の吸収量が多いというようなことで、注目されております。

こちらは農林部局が所管している部分で、今おっしゃったような皆伐した中での再造林率というような数値を今持ち合わせてはいないんですけども、こちらの目標数値には令和11年度までに人工造林に占めるエリートツリーの割合を、令和11年度までに

80%とするというふうなことは聞いてはおるんですけれども今、委員がおっしゃったような、皆伐したものに対しての造林の率ですとかちょっとそういったところですね、また担当の部局の方に確認をさせていただいて、ご報告させていただきたいと思います。申し訳ございません。

(部会長)

ありがとうございました。

ちょっと私うっかりしているのかもしれませんが、別部会で何か検討してることはないですか。

環境政策部会ですので、政策に関わることってということで、非常に多くのところ、全体を見渡せないといけないですけれども、本日はご出席いただいてない形になっていて、部会間とか或いは庁内で情報連携ができる体制があればすぐに検討なり、新しい提案なりが立ち上がってくると思うんですけれども、横串を通すような状態というか体制はございますでしょうか。

今ここに用意できていなければ仕方がない、現時点ではすぐには出ないと思いますけれども、今後こういうことも議論していけるようにするためには、どこかの部会があり、情報連携するということが必要なのではないかと思います。

(事務局)

環境審議会につきましては、こちらのほうの計画を審議していただくのはこの部会になると思いますが、エリートツリーの植栽割合等、農林水産部が所管している表につきましては、農林水産部の計画等にも同じような記載がございますので、庁内の情報連携をしっかりと行い、進捗管理等に努めて参りたいと考えております。

(部会長)

ありがとうございました。ぜひよろしく願いいたします。そのほかいかがでしょう。

(委員)

この会議初めて参加させていただきますが、資料2-3の管理シートなんですが、指標を36項目掲げられているので、この管理も大変だなとお察し申し上げるんですが、これバラバラですね、されてるんですが、これ実際は関係してるんだという、そういうイメージをお持ちだと思うんですよね。それが一目で分かるような、図を作った方がいいんじゃないかなと思います。

要するに、これとこれが関係しますよ、ということで、実際これを全部見てみると、GX推進計画の全体目標の温室効果ガスを減らすっていう直接的なものっていうのは1番と5番だけなんですよ。目標になっているのは。

だから1番と5番以外は大抵が啓発や呼びかけになっている。そういう啓発とか呼びかけが、何に効いてどれぐらいの効果があつたのかっていう、そういうモニタリングしていかないと、やったら良さそうなことをこうずっと挙げていってしまっ、結局項目が増えていっているということになってないかというのは、すごく危惧します。そういう関連図みたいなものを、削減量いくらになったっていう、例えばですね、2つめの新車販売台数に占めるEV割合もEVの割合ではなくて、台数があってそれでガソリン車か

ら買い換えることで、どれだけ二酸化炭素が減少できたのかというふうに、読みかえれると思うんですよ。そういうふうなものを一つ一つ見直しでいくと、どれだけの効果が出ていくのかということがですね、見えると思うんですね。そういうふうに、皆さん一生懸命、それぞれにされてる活動が、この温室効果ガスの排出量削減に、繋がっていつてんだということが一目でわかるようにすると、ちょっとそれがモニタリングできるようになんか、システムにしとけばですね、私頑張ってるんだけど何に繋がってるんだろうか、そういう無力感みたいなものが、少しでも和らげるかなと思いました。

2つ目は、排出源の対策とセットということで、これ排出源対策に指標がなってるのだと思うんですが、排出源の、どこからいくら出ているのかという資料が見当たらないんですけど、これはなんでかなというふうに思っています。要するにそれとのセットで、この対策をしてるんですよというものが、見えるようにしていただければですね。啓発とか呼びかけっていうものも、意味が出てくるんじゃないかなと思うんですけども。今更その指標を変えてくださいと言ってるのではないですが、関連図を作って、ちゃんと定量的にですね、排出削減に向かってるというふうな、システムみたいなものは作れるんじゃないかと思っています。次そういう図をですね、ぜひ見たいなというふうに思っています。以上です。

(部会長)

貴重なご指摘ありがとうございます。資料 2-2 の中でも取組内容ということで、第 1 から第 5 まで挙げられてる中に、いろいろ推進っていうところがあって、それ以外にも個別の啓発活動っていうのがあるんだけど、個別の啓発活動の成果っていうのを一覧表にした時点で、表では分かるけれども、どこに成果として結ばれていくのかっていうのが見えにくくなっていると理解しましたがおっしゃるとおりだと思います。

これについても第 4 次徳島県環境基本計画の立て方もちょっとアレンジしたということもあって、なかなかたくさんのが整理できないかもしれないですけども、資料 1-2 ですと、取組内容のところに、それぞれの大きな主要取組の目標の中に小さな項目があって、それぞれ推進と活動が分類はされているかと思います。委員からご指摘のあった、無力感というか取組をした、あるいは参加したけれども、そこがどこに結びついたんだろうってことで、ここ数年、数値が変わってないと見るとがっかりするっていうのを避ける必要があるので、まさにご指摘のとおりで、それぞれの啓発活動のところから、逆引きでどういう取組に繋がってて、どういう数値になっているのかが見えるようにする、例えばそういう啓発活動のところで、実はこうなんですよっていうのを、多分出してると思うんですね。削減が進んでる。徳島県としてはこう進んでいる。それがそれぞれのイベントで見えるようになって欲しいということと、そのイベントに参加できなかった第三者の人が、そういうことで啓発活動されてたんやな、LED の活動はそういうところに繋がっていつてるんだなっていうのが、見えるような活動っていうのも確かに必要だというふうに感じました。

具体的にこういう活動はしてるかとございましたら、あるいはちょっと本日ご用意した環境白書の方にはそういう関係性が分かる図はないんですけど。審議会等々の資料でどっかで見たような気がするんですけど。いかがでしょう。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。この指標もたくさんございまして、計画にある取組内容に基づいて、GX とくしまでありますとか、好循環とくしま、癒やしの郷とくしま、県民主役とくしま、という各取組内容に応じて、この数値目標、指標等を定めているところでございますが、ご指摘いただきましたように、これがどういった脱炭素の取組に繋がっているのかというのを分かりやすく表示できるような見せ方を今後検討して参りたいと考えております。

(部会長)

たくさん取組がある中で整理するのは非常に難しいのは、研究者としても重々承知しておりますが、県民の方に伝わるということが非常に大事なことだと思いますので、よろしく願いいたします。

(委員)

私も今年からの委員でございますので、ちょっと失礼なお尋ねになりましたらご容赦いただきたいんですが、そもそもこの第4次基本計画というのが、令和6年度2024年度から2028年度の策定というふうに理解しておりましたけれども、物によっては目標年度が2030年度に設定されていたり、その辺りがどのように整理されているのか。県民の皆様にごいったものをご提示する場合、確かにずっと継続して取り組むべき計画だと思うんですけども、第4次と言っておきながら、2030年度数値設定がちょっと混在しているというのが、私としてはちょっとよく分からぬまま、本日は伺いました。いろいろご説明の中で、会長おっしゃったようにパラメーターがいろいろあって、例えば今日は数値のご訂正とかをいただいたりということもありましたけれども、その辺りが、第4次という計画の表現にはちょっと、そぐわないのではないかという、第4次の策定には関わっておりませんでしたので申し上げるのは、失礼かと思いましたが、この計画の設定そのものが難しいのではないかなということを感じた次第でございます。

ですからこの計画を県民の皆様方にお示しするときに、年度がなぜこう跨がっているのかとか、そういう基本的な、すべての人が読んで理解しやすいような計画、これはなぜこの目標数値が年度設定が違うのかとか、そういうふうなことまでお示しいただくと、分かりやすいのかなと思った次第でございます。

(部会長)

ありがとうございます。

ずっと計画と、ブランドアクションをずっと続けてきてるっていうこともあって、確かに分かりにくいところがあるかと思います。

一方で実績値についても出るベースがそれぞれ違って、目標値と実績を、突き合わせるときに、突き合わせできないっていう事情もある反面、あんまり正直に突き合わせることで、県民の皆さんがかえって読みにくい資料になってしまうと、何の指標にもならないので、出し方がいろいろある、修正っていうことをするとき、どうしても下げ方向の修正とか上げ方向の修正っていうことで、下げ方向はあんまりやりたくないっていう気持ちもよく分かるんですけども、この年度が違うということは確かに見てみたら気持ち悪い点もありますので、違う理由について補足できる箇所があると思いますの

で、事務局から補足ご説明をよろしくお願いします。

(事務局)

目標値につきましてご質問いただきました。基本的に目標値で、目標年度 2030 年と設定しているのはクリーンエネルギー関係かと思います。クリーンエネルギーにつきましては国のエネルギー基本計画がございまして、それに基づきまして、国の方でも国の施設とか、自身の施設にどういうふうにクリーンエネルギーを導入するかということで目標を設定しております。例えば国の方の公用車をしっかり電動化していくですとか、国の施設につきまして、太陽光の設置を進めていくですとか、2030 年に目標値を設定しております、それに合わせるような形で、クリーンエネルギーにつきましては 2030 年というところに合わせさせていただいてるんですけども、可能な限り、年度ごとの目標値も設定できるところにつきましては、設定させていただきまして、2028 年度の数値というの、出せるようになっておりますので、2028 年、2030 年混在して分かりにくいというお話もございまして、出せるもの出せないものもあるんですけども、可能な限り分かりやすい資料にさせていただこうと思いますので、ご理解いただければと思います。

(部会長)

ありがとうございます。いかがでしょうか。少し時間を押してきましたので、環境白書の方のご説明もいただきたいということで、もう一度最後に時間がありましたら、時間の許す範囲で、もう一度この議題 1、議題 2 についてもご意見、ご質問、初めての委員の方におかれましては、もちろん多数、お伺いしたい点があるかと思いますが、残り時間ちょっと押してきていますので、次の議題の方に進ませていただきたいと思います。

そうしましたら、議題 3 に従いまして、令和 6 年度徳島県環境白書について、資料 3-2 等々に基づきまして事務局からご説明のほどよろしくお願いいたします。

<議題 3>

(事務局より議題 3 について説明の後、質疑応答)

(部会長)

ご説明の方ありがとうございました。環境の状況や講じた施策の内容についてのご説明でした。白書自体が、2024 年度発行ですけれども、内容については 2023 年度までの達成状況、現状値という数字で出ました。これに対して目標値っていうのが、添え書きされてる形で、それぞれの節ごとに、どれだけ達成されてるかっていうのも確認いただけるような文章にはしていただいております。この年度については、遡るといってか以前の年度になることは、白書まとめた時期ということの関係でご了承いただければと思いますが、ただいまご説明いただきました内容について、ご確認いただきたい点だとか、ご提案等ございましたらお願いいたします。

(委員)

今回初めての参加になりますのでちょっと経緯がわかってない部分もあるかもしれま

せんが、今ご説明いただいた、白書について少しコメントさせていただきたいんですが。大したことではないんですけども、例えば 40 ページあたりのですね、写真で示されております建物とそれから設備が何か示されておりますけども、こういったところには、例えばこの工業技術センターの一番右の写真、正直何の写真か全くわからないんですが、もう 1 つ、どういった設備なのかのちょっと説明の文はいらないと思うんですが、何の写真かわかるようなそういった情報がちょっと提示されていた方がいいのかなというふうに思いました。

それと、最後の参考資料の方で、これは第 3 次のおそらく取組の結果を示されてるのかなと思うんですが、という理解でよろしいでしょうか。

これ 2023 年度の現状値というのが、この第 3 次の一応結果という理解でよろしいでしょうか。達成してるものもあればしてないものもあるかなと思うんですけども、先ほど委員からもちょっとご指摘あったと思うんですが、啓発活動もとても大切なことだというのは重々理解してるんですけども、啓発活動っていうのはやはり、その先にある目標があって初めて意味のあるものかなというふうに思いますので、啓発活動の回数だけで、目標達成というのはちょっといかがなものかなというふうに思います。

先ほどの LED の話もそうなんですけども、LED の普及率そのものなんかがですね、どうなってるのかといったことについても、ぜひこれも指標が今、増やせるのかどうかかわかんないんですが、そういった要は目標の結果ですね、成果についても、何か評価できるようにしたほうが、取り組んでる方々もやる気が出ますし、それに参加される方も、成果が具体的に見えるということの方が、いいんじゃないかというふうにちょっと感じました。すいませんちょっと話が広がりましてけど以上です。

(部会長)

ありがとうございます。先にご指摘いただいた写真の件については、確かにおっしゃる通りで、科学技術論文とかでよくあるように、キャプション、図の説明ってことで下に何とか装置っていうのがあれば、工業技術センターの例だと外観、もう 1 行入れて外観と何とか装置っていうふうに入ればそういう装置があってこういう研究が進むんだっていうのが、手にとっていただいた方によくわかるというふうに思いますので、是非それは反映していただければと思います。

2 つ目のご指摘あった件はまさにその通りで、確かに目標、回数っていうのは自治体さんとしては、何回実施したというのは非常に大事でそれはこなさないといけないということもあろうかなと思うんですけども、一方で参加した人にとってはその回数よりも、参加したことで何に繋がったというのは確かに必要ですので、参考資料、参考表みたいな形で、それに関係するのがわかるような、現状値、目標値っていうのが、例えばこの白書見ても、多分前から後ろまで全部読む人は少ないと思いますので、それぞれの節のところに、ちっちゃい表が参考表ということで、LED の普及率っていうのに関係するんであれば参考 LED の普及率みたいなものが何度も出てきてもいいと思うんですね。何度もあちこちに出てくるということで、そうすると、本日ご指摘いただいたような点が白書の中からよくわかってくるのではないかなと私自身は感じます。今、パッとした思いつきで申し上げてますけども、後ろの表にまとめるのもいいんですけども、一方で参考ということで、細々何回も出てきて、いいんじゃないかなというふうに思いました。これについてはご検討いただきたいと思いますんですが、現時点で事務局の方から、ご説明、補足いただく

点がございましたらよろしくお願いします。

(事務局)

ご意見ご指摘等ありがとうございました。

写真については分析機械、研究に使う機械なんですけどもご説明の方、記載させていただきます。指標についてもですね、一応本編にこの指標と同じようなものは本編中には記載させていただいてはおるんですけども、これは何に効くのかLEDの普及率等に効くのかもあわせて併記できるようにちょっと検討させていただきます。

ありがとうございました。

(部会長)

ありがとうございました。よろしかったでしょうか。その他いかがでしょう。

環境白書についてはちょっと一長一短あって悩ましいところあるんですけども、これ2024年度の発行するものは2023年度までのデータってということで、はっきりしたデータに対して書かれたものになります。

一方では本日からご参加いただいた委員の方もいらっしゃるよう、新しく参加した方々にとってはこれまでの経緯だけになるので、いや、そうは言われてもっていうところ。あとは2024年の数値を、本日議題の1、2でご覧いただいた時点で、いや、ここはもっと頑張らないといけないんじゃないか、或いは頑張ったのに、それがまだ書かれてないっていう古い資料、古いデータになるので、全然反映されたものでないっていう、悩みがあるかと思います。

2024年度見込みでとにかく2024年度、発行時点の最新情報を載せるべきなのか、はっきりした比較ができるように、データに基づいて、目標値っていうのが達成できたかどうかをしっかりと把握するために以前のものにするべきなのかっていう意見分かれるところなんですけども、現状以前のもので、はっきりした数値で書かせていただいていることがございます。ですのでこの環境白書に基づいて、本日議題1、2の方が先になりましたけども、これに基づいて2024年度の計画数値等を先にご議論いただいたようなところがございます。それに相まって環境白書、2024年度版の白書の構成が、以前の計画になっている。実際以前の計画といいましても、ほとんど第2部の構成が、好循環、癒やしの郷、みんなでつくるっていうところはほとんど第4次の計画の目標と一致してますので、その他のところが1つにまとまったような形になっていますので、読みにくさはないと思うんですけど、それでもちょっとこれからっていうところがございますので、現メンバーの我々の議論した結果が、次の環境白書に反映されてくるということで、その読みやすさについては今し方ご指摘いただいた点を含めて、わかりやすい白書になってより良くなったなっていうふうに県民の皆さん見ていただけるように、これから進めていっていただければというふうに思います。

(委員)

この管理シートの1-3と2-3とで、この環境白書の関係みたいなものがわかればいいなというふうに思ってたんですけど、なかなか見づらくて、探してるんですけどなかなか見当たらないことがあるんですけど。そういうので、例えば管理シートの右端に、環境白書のページ数とかあったらですね、その内容がわかっていいかなというふうに思

いました。

(部会長)

ありがとうございます。まさにそういうことだと思います。環境白書を手に持ちながら議論をしたらいいと思うんですけど、多分 2025 年度の時からはこの表と揃った形で白書が横にあるので、白書を横に、Web でも電子データでもいいので、できればスマホとかでも見れるわけですから確認しながら、この進捗管理シートも確認できるようにしていきたいと思いますし、そういうふうな立て付けになってることと、この本日の審議が有意義に進むようにするためにも、ご検討いただければと思います。というかそうなるっていくと思っています。

今後の白書のまとめ方も含めて施策の参考とさせていただきたいと思いますので、事務局におかれましてはよろしくお願いします。

ちょっと時間押してきてるところなんですけども、議題 1、2 については、いかがでしょうか。どうしても発言残されてる方がいらっしゃいましたら、委員の方はご発言いただきたいと思います。数値については修正点が、資料 1-3 と資料 2-3 ということで一覧表が出てまして修正の数字の事務局からの提案に対しては異議がなかったというふうに考えています。目標年度についてもご確認いただいて、ご了承いただいたことと理解しています。ということで、議題 1、2 については、重要な修正、議論が必要な点はもうすでになかったかと思うんですけれども、いかがでしょうか。ご発言希望される委員の方がいらっしゃいましたらお願いいたします。

(その他意見なし)

では議題 1、徳島県第 4 次環境基本計画と議題 2、徳島県GX推進計画につきましては、本日いただいたご意見を踏まえて、各計画の指標の修正はさせていただきますとともに、これに伴う軽微な修正或いは、てにをは等の修正についても、事務局と調整することとして最終的には部会長である私の方に一任いただくことでよろしいでしょうか。

(意義なし)

ありがとうございました。進捗については議長の不手際でちょっと時間押して参りましたが、これにて本部会は終了させていただきたいと思います。不手際でちょっと時間が延びたことをお詫び申し上げまして、事務局に進行をお返しいたします。よろしくお願いします。

(事務局)

部会長ありがとうございました。

閉会にあたりまして、徳島県生活環境部環境指導統括監からご挨拶を申し上げます。

(事務局)

あいさつ

(事務局)

以上をもちまして徳島県環境審議会環境政策部会を閉会いたします。
本日はありがとうございました。